カワイイのぼり旗でゴミを減らそう！
「えひめゴミ0プロジェクト」

愛媛県立長浜高等学校
3年生　重松 そら，島崎 優希，下山 留奈
2年生　北田 真優，朝木 海地，多田 有希
園山 槙也，合田 福都，白倉　樹
末光　礼，髙島 望実，山本 春菜

1．背景

私たちの長浜高校には、1 年生全員が地域研究に取り組む「キャリアデザイン（総合的な探究の時間）」という授業がある。この授業は、まず地域の課題を見つけることからスタートする。私たちは4人程度の班に分かれ、長浜町内のパン店や電気店、商工会議所などに出向き、各事業所や個人、地域が抱える課題についてヒアリングを行った。その結果、公園などのゴミ問題が深刻であることを知った。私たちは毎年夏休み前に長浜港湾緑地や海水浴場で清掃活動を行う。防波堤には「ごみすて禁止」と大きく描かれているが、防波堤とテトラポットの間からは、空き缶やペットボトルなど、たくさんのゴミが出てくる。それらのゴミは劣化していないことから、海から流れ着いたものではなく、心無い誰かによって捨てられたものだと推測される。ゴミを拾う人と捨てる人、なぜこのような違いが生まれるのだろうか。私たちはゴミ問題を地域の課題と捉え、捨てられるゴミを減らすことを目標に活動することにした。そして、まずは地元長浜から活動を開始し、この活動を大洲市、愛媛県へと広げていった。今回の取組は、今年の卒業生、現3年生、2年生が1年時に行ったものである。

2．活動の詳細

2．1 公園での現地調査

調査対象地域である大洲市長浜港湾緑地（写真 1）は約 2.29ha の広大な敷地で、伊予灘に面して海に突き出たような公園である。視界は 360 度海や山に 1 囲まれていて見晴らしがとても良く、公園の外周には釣り専用の護岸が整備されており、休みの日にはたくさんの釣り人でにぎわう。その他、多目的広場、遊歩道、休憩所などもあり、家族連れが多い。実際にこの公園に足を運び、捨てられているゴミの様子を調べてみた。公園の釣り用の護岸や植え込みの中などに、タバコの吸い殻、ペットボトル、空き缶などを確認できたが、思ったほどゴミは多くなかった。公園を清掃している方がいらっしゃったので、声をかけてみたところ、その大変な苦労を知った。「大変です」「言わないと食べてもそのまま置いて帰る人が多い」など普段からゴミ問題に苦労されている様子が伝わってきた。清掃をされていたのは婦人会の方々で、当番制で毎日朝 4 時半からこの港湾緑地公園を清掃されているとのことだった。この公園のゴミが比較的少なくきれいに保たれているのは、婦人会の方々が毎日清掃活動をされているからであることを知った。

写真１　大洲市長浜港湾緑地

2．2 のぼり旗でゴミを減らす

私たちの活動の目標はゴミを減らすことであるが、誰かが清掃活動をすることで減らすのではなく、ゴミを捨てる人がそれを思いとどまることを目指している。最初はゴミ捨て防止のための意識啓発ポスターなどを制作しようかと考えていたが、現在もごみのポイ捨て禁止を呼びかける掲示物は設置されており、これでは十分な効果が得られないと考え、私たちは新しい方法を検討した。そこでたどり着いたのがのぼり旗である。のぼり旗はポスターよりもより目立ち、さらに丈夫である。また、のぼり旗は立てる場所次第で人の目にもつきやすく、遠くからでも興味を引くことができる。そのような利点を生かして、私たちはのぼり旗という新しいアイデアでゴミ0を目指すことにした。のぼり旗をデザインするにあたり、漫画「熱帯魚は雪に焦がれる（愛称:はにがれ）」の作者である愛媛県出身の萩埜まこと様にイラストの提供を相談したところ、ご快諾をいただいた。「はにがれ」の主人公は女子高生で、漫画には長浜を舞台に実際の水族館部の日常や長浜の風景が綴られている。漫画に登場する女子高生たちは繊細ながらも力強く、表情も豊かでのぼり旗の素材として抜群だと考えた。そして女子高生たちをデザインとしたかわいいのぼり旗を作ることで、明るく前向きにゴミのポイ捨て防止を呼びかけることができるのではないかと考えた。

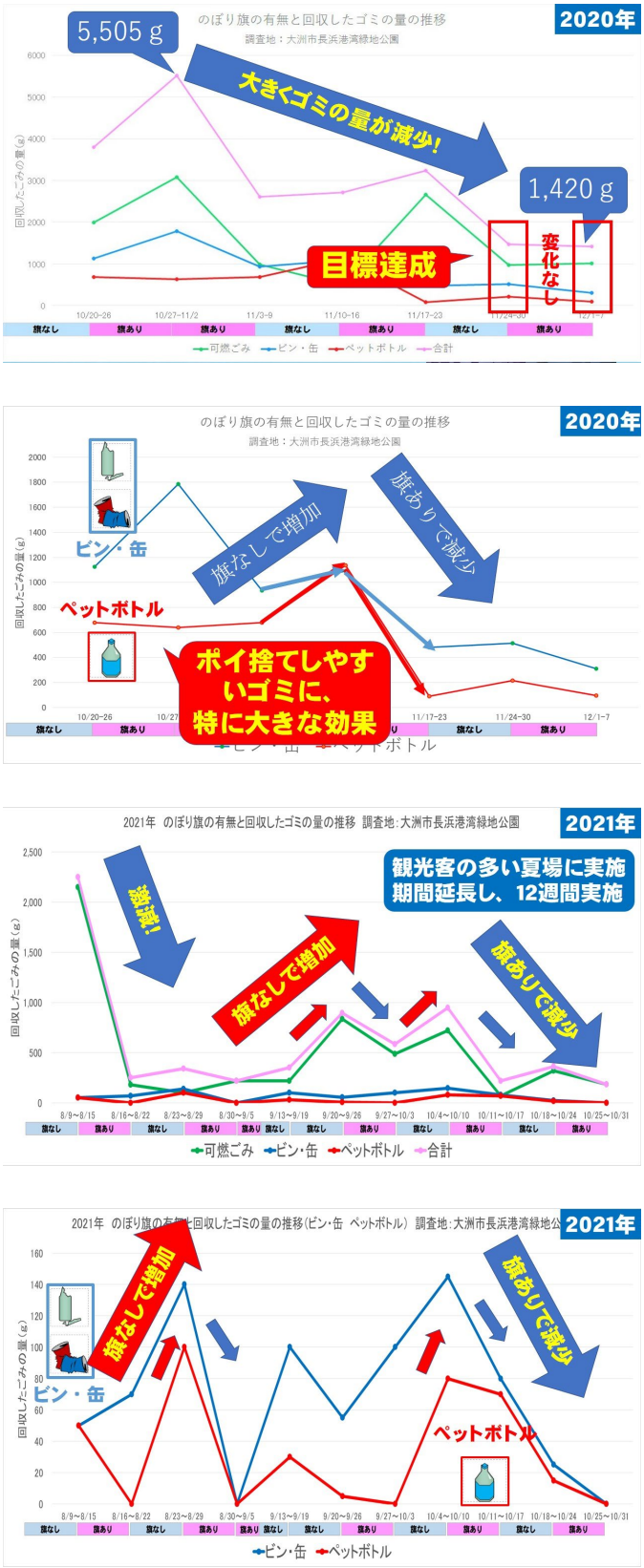

図１　ごみの量の推移（2021～2022 年）

次に、イラストの女子高生にどんな吹き出しをつけるか、みんなでじっくりと考えた。ただ「ごみを捨てないでほしい」といったような言葉では、のぼり旗を見たとしてもポイ捨てを思いとどまらないかもしれない。私たちはのぼり旗が注目され、見た人の心に響く、という点を重視した。そして「まさかあなたがごみを捨てるなんて」や「あなたの手はごみを捨てるためのものじゃないよね」など、女子高生の表情と組

み合わせて、思わず誰もが立ち止まって自分の行動を見直してしまうような言葉を選んだ。最初と最後ののぼり旗には、私たちの想いもメッセージとしてしたためた。こうして、一つのストーリーが完成した。女子高生がごみをポイ捨てしている場面に遭遇して心を痛め、そこからゴミ0に向けて長浜の街をきれいにする活動を始める。次第にゴミが減っていると実感し、「きれいな長浜ってすてき！」で締めくくっている。

調査は 2020 年～2022 年の夏場を中心に行った。毎週月曜日に私たちが公園内のゴミ収集を行い、公園内のゴミをリセットするとともに、可燃ゴミ、瓶・缶、ペットボトルに分けて質量を計測した。また、同時にのぼり旗の設置と撤去を行い、旗の有無によりゴミの量がどう変化するかを比較し、のぼり旗のゴミ捨て抑止効果を検証した。また 2021 年には、大洲市内の事業所や団体に、2022 年には県内の高校生にものぼり旗プロジェクトへの参加を呼びかけた。

３． 活動の成果

３．１ のぼり旗の効果

紙面の都合により、一部の成果のみ報告する。2020 年、2021 年ともにのぼり旗の効果で大きくゴミの量が減少した。特に 2021 年はのぼり旗を立てた途端に急激にゴミが減少し、秋の釣りシーズンに少し増加したが 2020 年に比べて低めで推移した。2020 年は秋から冬、2021 年は夏から秋にかけて調査を実施した。2021 年は観光客が多いと予想される夏から秋の調査であったが、意外にも秋から冬の 2020 年よりゴミの量が少なく、開始当初からのぼり旗の効果が出ていたのかもしれない。

また、興味深い現象も明らかになった。手軽にポイ捨てしやすい瓶・缶、ペットボトルは、のぼり旗がない時には増加し、のぼり旗があるときに減少する傾向がみられ。女子高生が語り掛けるのぼり旗を見て、ポイ捨てを思いとどまる人が増えたのではないのだろうか。婦人会の会長さんからは「今までに比べて明らかにごみの量が減っている」との言葉をいただき、やはりのぼり旗の効果は大きいと実感した。

３．２ 地域への活動の広がり

2020 年は私たちが長浜町内の公園でゴミ 0 プロジェクトを実施したが、2021 年は私たちだけでなく、地元スーパーと大洲市内の街づくり団体にも活動に参加いただき、のぼり旗の効果を検証いただいた。さらに、2022 年には県内の高校生 5 団体にも参加いただくとともに、日本財団「海と日本プロジェクト」様のご協力を得て、本校でごみゼロ啓発イベントを 2 回開催できた。

私たちの活動が進んでいくにつれ、通りかかった地元住民の方々から励ましの言葉をよくかけていただくようになった。中にはわざわざ蜜柑を届けに来てくださった方もいて、長浜地域の方の温かさを改めて感じるとともに、私たちの活動が認められていると実感した。さらに、2021 年の活動中に、長浜婦人会の会長さんから思いもよらない嬉しいお話があった。「のぼり旗を立てている公園内で、長浜の老人会の方々がゲートボールを楽しまれているけど、あなたたちに刺激を受けて、わしらも何かせんといかんと言って、公園内のゴミ拾いや草抜きを始めたよ。さらには JR 長浜駅周辺でもゴミ拾いなどの美化活動を始めたみたいよ。あなたたち、すごいね。」私たちの活動が周囲の方たちに受け入れられ、共感を呼び広がり始めたのだ。本当に嬉しい瞬間だった。

ゴミ問題は、世界共通の問題である。そして問題の始まりはそれを捨てる人からだ。私たちが変えていきたいのは人々の意識だ。ゴミを何気なく捨ててしまう人は、きっとあまり深く考えずに捨ててしまうのではないか。そんな人たちが私たちののぼり旗を見た時に、その行為の残念さに気づいて欲しい。ゴミを捨てる人とそうでない人との違いは、ほんの少しの意識の違いではないか。こののぼり旗が、今までゴミ問題を意識しなかった人たちが、自分自身の問題と捉えるきっかけになることを期待している。